

第4回 市民フリースピーチ制度 協議結果一覧

1	男性	<p>道の駅の構想について</p> <p>道の駅は全国で約1,150箇所あり、観光や地域の防災拠点等、利用のニーズは高まっているが、ある調査によると約3割が厳しい経営状態にあるとも言われる。国交省が推奨する3つの全国モデル道の駅(川場田園プラザ、道の駅もてぎ、遠野風の丘)はそれぞれの特色を生かした道の駅だが、犬山の道の駅はどのような構想を目指しているか。市場のニーズはめまぐるしく変化するため、経営者視点で見て、市民に納得のいく道の駅構想を作って欲しい。</p> <p>(対応)建設経済委員会 (対応先協議結果)建設経済委員会として建設的な意見ができるよう、行政からの説明・意見を聞く機会を設け、計画書の検証を行っていく。また、9月13日に担当課から道の駅について聞き取りを行った。今後、広く市民の意見を聞く機会を設けるようにしていきたい。</p>
2	男性	<p>内田観光駐車場利用について</p> <p>内田テニスコートでテニスをしているが、成田山西側の駐車場が使用できなくなり、内田観光駐車場を有料で利用しなければならない。市の大きな施設で駐車場のないところはあるのか。他の施設では何らかの形で無料で駐車できる。テニスコート利用する際に減免することができないのか。議会でテニスコートの利用料が安いので財政のプラスにならないとの理由で議会で否決されたのなら、議員定数を見直し16名にして、東の森の整備、トイレ・水道、我々のテニスの補助金に回して欲しい。</p> <p>(対応)民生文教委員会 (対応先協議結果)内田テニスコート利用者の観光駐車場の減免要望については、過去の付帯決議でないことになっているが、市民の声として受け止め、現在の利用状況、利用促進及び他の公共施設との整合性を考え、再検討の必要性がある。</p>
3	女性	<p>学校での性別による規則を減らすとともに、選択肢を増やしたい</p> <p>どうして中学校の制服は女子はスカート、男子はズボンなのか。スカートよりズボンを履きたい人は他にもいる。性別に関係なく着られて違和感の無いような制服があればみんなが安心すると思う。北九州市ではスタンダードタイプという制服を導入しており、東京都大田区では男女混合名簿を作成している。学校で重視されるべきことは、男女の区別を超えて一人一人の主体性を育てることではないか。子どもの疑問にひとつひとつ向き合い、その意思を尊重することで育まれるものものではないか。私の子どもの頃同じ疑問をもった。フリースピーチ制度を知り、発言することで何かが変わるのではないかと期待する。</p> <p>(対応)民生文教委員会、三浦知里議員 (対応先協議結果)制服、校則については、学校個々の判断で変更可能なので教育委員会に学校側が話し合いの場に立ってもらおうよう委員長として申し入れをしていく。名簿についても教育委員会側に子どもたちが困らないように運用するよう申し入れていく。制服については、12月定例会で三浦知里議員が一般質問を行う。</p>

第4回 市民フリースピーチ制度 協議結果一覧

4	男性	<p>城下町のまちづくりと防災対策について</p> <p>城下町は全国から多くの方がみえて活気をおびている。この活気あるまちを一過性に終わらせることなく、持続可能なまちづくりをするためには、城下町の保存と活用、そして住民生活をいかに守るかが課題である。</p> <p>取り壊しが進むと、町屋の魅力が失われ、城下町を守ることができない。また、住民は町屋での火災を一番恐れている。城下町の特性を考慮した消火栓の配置をして欲しい。また、高齢化で祭りの継承も危ぶまれている。城下町の保存と再生、安全安心、そして若人が住みたくなるまちづくりを進めて欲しい。</p> <p>(対応)総務委員会 (対応先協議結果) 委員会として9月24日に城下町地区の消防水利の現地調査を行った。結果、防火水槽23基、消火栓30基が配置されており、数的には充足していることを確認した。2号消火栓については、町内会等と調整のうえ、要望としてあげて頂きたい。</p>
5	男性	<p>新制度の設定(自宅で親族(家族等)を介護する支援)</p> <p>自宅で親族の介護を支援する新しい制度を作ってほしい。介護される人が介護保険の被該当者の場合、介護者に対して補助を出すなどの新制度を作ってほしい。</p> <p>デイサービスなど、一部のサービスは条件が整えば支援する制度があるが、それでも24時間すべては対応できない。しかも介護に時間を取られる上に、費用をすべて負担しなければならないため、十分な対応できないが、新制度によって負担解消になるのではないか。</p> <p>(対応)民生文教委員会 (対応先協議結果) 9月定例会に上程された、犬山市在宅要介護者介護手当支給条例では、県下でも一番高い支援額となる。また、経済面以外での支援もできるように申し入れていく。</p>
6	女性	<p>投票をもっと楽しく</p> <p>昨今の選挙の低投票率の問題に対し、国・地方自治体から何の働きかけがないように感じる。これでは市民の意見が真に反映する仕組みにならないのではないか。この危機的状況にせめて自分の住んでいる地域から変えていければと思う。例えば投票所に屋台を設置し投票した人に犬山ドックを配ってはどうか。これはあくまで一例だが、これをきっかけに各地域に特色のある取り組みが生まれ、投票への関心が高まるだけでなく、地域の宣伝になるのではないか。犬山ドックのアイデアは投票率が90%を超えるオーストラリアの取り組みを参考にした。</p> <p>(対応)総務委員会 (対応先協議結果) 重要な課題と認識するが、実施には法の壁もあると認識する。投票率アップに向け、選挙管理委員会との懇談を検討する。</p>